

伊勢市教育研究所

第16号

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

たよ町



平成 27 年 3 月 5 日
伊勢市教育研究所
伊勢市小俣町元町 540 番地



第3回 不登校問題分析委員会を開催



平成 27 年 2 月 12 日（木）、平成 26 年度第 3 回不登校問題分析委員会を開催しました。不登校問題分析委員会では、各校の委員の先生方と教育支援センター「NEST」が共に不登校についての分析を行っています。不登校は、今の学校現場で大きな課題となっています。その要因や背景は、個々のケースや社会的な条件によるものであり、解明することは非常に難しいものです。けれども、子どもの成長や自立に向けた、より適切な対応を行っていくために、不登校をどうとらえるかについて考えることは、非常に重要なことであるといえるでしょう。

本年度、不登校問題分析委員会では、「各校の情報交換」、「校区の小中学校の共通理解」、「9 年間の子どもの支援・見守り」という視点で、不登校について考えてきました。

第 1 回目は 6 月 17 日（火）、NPO 法人フリースクール三重シューレ代表の石山佳秀さんに、「不登校と子ども・保護者への対応～自己肯定感と多様な育ちから考える～」と題し、講演をしていただきました。第 2 回目は 11 月 20 日（木）に開催し、校区別グループに分かれて、不登校及び長期欠席児童生徒、気になる子どもへの対応等について、実践及び意見交流を行いました。それぞれのグループには臨床心理士も参加していて、助言していただきました。

今回は、本年度最後の開催ということで、不登校問題分析委員会の取り組みのまとめと、教育支援センター「NEST」研修員による研究報告を行いました。



報告〈不登校問題分析委員会のまとめ〉

教育支援センター「NEST」の岡裕子指導員が、柱立てを「不登校をどうとらえるか」、「校内支援体制づくり」、「保護者との連携」、「小中連携の重要性」、「早期対応・未然防止」として、グループ交流で話し合われたことを報告しました。

また、本年度の成果について、校区別グループ交流を行ったことで地域の課題について少人数で情報交換し、各校の具体的な対応や

支援の方法を考える機会となったこと、子どもを中心とした話し合いになり、一人一人が学校の子どもの顔を浮かべながら考え、話ができたとをあげ、来年度はより具体的な児童生徒、保護者の支援方法について考えていきたいと報告しました。



足代泰弘研修員報告〈不登校の子どもの支援のあり方について〉

「NEST」通級生の中には、一見明るく元気で、「なぜ学校に行けないのだろうか」と感じるような子どももいますが、実は隠れた内面に大きなストレスを抱えていることがあります。

「NEST」では、一人一人に寄り添いながら、自立に向けた支援をしています。子どもたちがエネルギーを十分蓄え、自ら学校へ復帰していけるよう、行事に合わせて部分登校を促したり、放課後、先生に会いに学校に行くことや、電話で先生と話すことなど、その子の状態に合わせて学校とのつながりを持たせたりしています。

第3回不登校問題分析委員会では、「子どもの自立を支援する組織づくりと関係機関との連携について」をテーマに、取り組んできた研究と実践を報告しました。

なお、倉田山中学校には、「学びのグレードアップ総合推進事業」における研究にご協力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



臨床心理士の前川知奈美先生から、報告に対する助言をいただくとともに、不登校について以下のような話をさせていただきました。

小学校低学年の不登校は、家庭や親から離れることに対する不安と、学校生活における大変さが影響していることが多いと言われています。

思春期は、家や親から自立したいという気持ちが芽生えてきますが、それに対する不安もあり、悩み多き時期です。また、他者と違う自分に気づくことで、「自分って何だろう」と考え出す時期でもあります。

それらに、様々なストレス（家庭環境、友人関係、勉強等）が加わることで、心のバランスが崩れ、不安や恐れを強く感じるようになっていわれています。

そんなときに、友人や家族、教師からの支えが十分でないと、がんばることが難しくなったり、家から出られなかったりするようになるのではないのでしょうか。教育支援センターを利用している生徒の状況は、様々ではありますが、その子にとっての支えをより充実させるために、関係機関との連携をとり、また次のステップに向けて高校や進路先と連携をとることが重要ではないのでしょうか。



子どもたちにつけたい力

- ◆ 困ったときに助けを求められるスキルを学ばせ、不安のコントロールを学ばせる。
(子どもたちに伝えたいこと)

- ①気分は変えられるということ
- ②自分の体の変化 不調と心配なこととの関係
- ③不安を言葉で表現できるように・・・



学校生活は、しなければならないことが多く、忙しく時間がすぎています。
また、学校という集団生活の場では、（特に思春期には）同性の友人グループの中で、互いに自己主張をし、ゆずりあい、また受け止められることを繰り返すことで、自分の居場所を見つけ、対人コミュニケーション力があがっていくのではないのでしょうか。
適度な自己主張と協調性があることで、集団生活が成り立っていくのでしょうか。

一人一人の生き方に寄り添って・・・

宮崎教育長は冒頭の挨拶の中で、不登校の状態にいる子どもたち一人一人の生き方にどれだけ寄り添うことができるかということが大事であると話されました。そして次のような話をされました。

不登校の子どもたちが100人いるのであれば、そこには100の生き方があります。
生き方なので、不登校も「1つの生き方」なのだと思います。

しかし、その確信があればよいが、残念ながら子どもにも親御さんにも、そこまでいっていないように思われる。学校へ行きたくても行けないのであれば、その行けない条件、阻害している条件を1つ1つ、崩していくこと、学校に行けば「学校って楽しいなあ」と思えるようにしていくことが私たちの仕事ではないのでしょうか。

不登校問題分析委員会において、共に分析を進めていくとき、分析のみにとどまらず、その子の生き方をどうとらえるかといった視点にまで至ったとき、初めて子どもも親御さんも心を開くのではないのでしょうか。

今回報告したのは1つの答えであり、いろいろな答えがあります。みなさんの中にもある。それが重なり合うことで、道がみえてくるのではないのでしょうか。



アンケートでは、たくさんの感想や貴重なご意見をいただきました。来年度、さらに意義ある「不登校問題分析委員会」に発展させていきたいと考えています。



不登校問題分析委員の先生方、一年間本当にありがとうございました。



ホッとLine「NEST」の活動紹介

～不登校・登校しぶりをともに語り考える保護者の会～

教育支援センター「NEST」では、一年間に3回、ホッとLine「NEST」を開催し、保護者と共に不登校について考え、話し合っています。

第3回目は2月19日（木）午後7時から、皇學館大学教育学部教授 渡邊賢二先生を助言者に迎え開催しました。渡邊先生は、教育臨床心理学、家族心理学を専門とされ、思春期の親子関係や親支援、また色々な問題行動の予防の一環として、学校で心理教育の実践と研究をされています。

家庭での子どもの様子や悩みを語り合い、子どもの心にどのように寄り添ったらよいか、どのように子どもを支えていったらよいか考え、話し合いました。

渡邊先生からは、次のような助言をいただきました。

- 子どもは親をよく見ている。親に元気がなかったら、子どもも元気が出ない。親が元気であれば子どもも元気が出てくる可能性が高い。子どもを支援すると共に親の支援をすることが大切である。
- 小学生と中学生は全然違う。児童期から思春期に移っていく時期で壁がある。早い子では小学5年生くらいから反抗期を迎える。親は小学生のときと同じように中学生の子どもに関わってはいけい。子どもは成長しているのに、親は同じように養育している場合が多い。例えば、今まで子どもにガミガミ言っていた場合は中学生になったら少し引く必要がある。
- 子どもと感情的にけんかをしてしまったら、その後冷静になってからきちんと話し合うことが大切である。親が悪いと思ったら謝る。
- 不登校のパターンは人それぞれである。過去は変えられない。これからの事しか変えられない。他人を変えるのは難しい。自分が変わらなると、相手は変わらない。それを見て、相手が変わるかもしれない。
- 家族の中でコミュニケーションを取ることが大切。まずは挨拶から始める。無視されても常に声を掛け続ける。些細なことでも声を掛けるのは大切。例えば「ただいま。」「お帰り。今日はどうだった？」と何気なく声を掛けてみる。
- 中3になると、進路に向かって自分が変わろうとする子どもは多い。

参加された保護者からは、「他の保護者の思いに共感できる部分がたくさんありました。」「渡邊先生の言葉にホッとしました。」という声が聞かれました。

ホッとLine「NEST」では、保護者と共に子どもたちに向き合い、日々の思いを出し合うことで、ホッとした気持ちで家に帰り、前とは違った関わり方があればプラスになっていくかもしれないと思っています。今後も一人でも多くの保護者のみなさんの心の支えになればと願っております。